

日本カウンセリング学会

第12号

認定カウンセラー会 ニュースレター

日本カウンセリング学会 認定カウンセラー会

〒112-0012 東京都文京区大塚3-5-2 佑和(ゆうわ)ビル 2F

TEL&FAX 03-6304-1233

各専門部会、2011年度の研修内容・総括、2012年度の研修予定

◇学校カウンセリング部会

1. 2011年度 相互研究（研修）会の活動報告

学校カウンセリング部会では、会員のニーズについてディスカッションを行い、そこからあがってきたニーズの高いテーマを取り上げ研修会を行ってきた。具体的には、第2回研究会では学校現場における思春期臨床への対応のあり方について、第3回では困難高校における教育カウンセリング・プログラムの実践について、第4回では特別支援教育の現状と求められる支援のあり方について、第5回ではニート・フリーター予備軍にしないためのキャリア教育のあり方について研修を行った。ニーズの高いトピックを取り上げることで参加者にとって満足度の高い研修の場を設定できたのではないかと考えている。

2. 2012年度の活動計画

2012年度も2011年度同様、学校現場のニーズに応える研修会を計画していきたいと考えている。早稲田大学の使用が2年目となることから、早稲田大学教育・総合科学学術院の先生方を中心に講師を依頼している。計画案は以下の通り。

日程	活動テーマ（案）	講師（案）
5月20日（日）	包括的スクールカウンセリングの理論と実践、キレやすい子の理解と対応 （アンガーマネジメント等）	本田恵子教授 （学校心理学・カウンセリング心理学）
7月8日（日）	医師の立場からみた学校現場における思春期・青年期の臨床（アセスメント、関係機関との連携等）、子どもや教師のうつ、新型うつの理解と対応、等	堀正士教授 （精神科医、精神神経科学・臨床心理学）
9月9日（日）	キャリア教育とカウンセリング（キャリア教育の実践プログラムや具体的な事例の紹介等）	三村隆男教授 （キャリア教育）
11月11日（日）	通常学級における特別支援教育のあり方（LD・ADHD）などの子どもへの場面別サポートのあり方、等	高橋あつ子准教授 （特別支援教育）
2月3日（日）	学級集団づくりに活かせるグループ・アプローチの実践（集団の状態に合わせたグループ・アプローチの展開方法、等）	河村茂雄教授 （初等教育学・カウンセリング心理学）

◇キャリア・カウンセリング部会

1. 今年度の研修内容と総括

第1回「キャリア選択に影響を与えるキャリアについての既成概念は何か」

第2回「面接逐語録をもとに、その対応について考える」

講師：本城 慎二

第3回「サッカーJリーグ若年者のキャリアサポートの実践から」「Jクラブジュニアコース選手を対象にしたキャリアデザイン・サポートプログラム」

講師：山田千賀子

第4回「今、学校に求められているキャリア教育とは～カウンセラーが果たす役割は何か～」

講師：本城 慎二

第5回1部「キャリアカウンセリング～定義から考える」2部「高等学校におけるキャリアカウンセリング」

講師：橋本 幸晴・本城 慎二

＜総括＞ 可能な限り、一貫したテーマで年間5回の相互研修会を行いたいと考えているが、これがなかなか難しく反省する点である。参加者も必ずしも固定していないので積み重ねた研修にならない点も欠点ではないかと考えている。次年度は積み重ねと、深めていけるテーマと方法を考えている。また進め方としては、相互研修会なのでその趣旨を活かして、講師による講義方式よりもキャリアカウンセリングに関わる特定のテーマについて、参加者が意見を述べてお互いに学び合える場になることを考え実行している。

2. 2012年度の計画 現時点の計画としては、

第1回「キャリア発達」 第2回「小・中学校におけるキャリア教育」 第3回「高等学校におけるキャリア教育」 第4回「大学におけるキャリア教育」 第5回「社会人のキャリア教育」

◇コミュニティ・カウンセリング部会、倫理教育部会

1. 今年度の研修内容と総括

第1回「社会福祉からの視点～アウトリーチ～」

第2回「犯罪・暴力・虐待防止や対処へのコミュニティアプローチ」

講師：村尾 泰弘

第3回「支援事例から考えるカウンセリングとソーシャルワーク」

講師：須藤 昌寛

第4回「相談とコミュニティカウンセリング～多重関係の克服とソーシャルサービスの展開～」

講師：福島 修美

第5回「コミュニティカウンセリングにおける人型シールPSS」

講師：住沢 佳子

＜総括＞ 今年度は会員相互の研修会を行い、犯罪・暴力・虐待への対応、アウトリーチの方法をソーシャルワークから学びました。福島先生からは、相談の原点について学びました。さらに、人型シールPSSのツールを得ることができました。来年度は、コミュニティカウンセリングのコ

アカリキュラムを相互に学びましょう。

2. 2012年度の計画

- 第1回「予防教育」 第2回「コミュニティカウンセリングのプロセス」
 第3回「社会変革のコミュニティカウンセラー」 第4回「カウンセリングプログラムの作成」
 第5回「開業カウンセラーに必要な能力」

◇教育・スーパービジョン部会

1. 今年度の研修内容

- 第1回「学会が求めるスーパービジョンとは（認定カウンセラーに求められるもの）」
 第2回「学会スーパービジョンの現状と課題」 講師：福島 修美
 第3回「スーパービジョンの実際」 講師：上地 安昭・富田 久枝
 第4回「全面逐語録に基づいたスーパービジョンの実際」 講師：上地 安昭
 第5回「総合的カウンセリングの理論技法によるカウンセリング教育」 講師：上地 安昭

＜総括＞ 本部会は、従来どおり「スーパービジョン部会」として、本年度の研修がスタートしました。

しかし、部会への参加者は前年度および前々年度同様、他の部会に比べて人数が少ない状況が続きました。そこで、その打開策として部会の名称変更とともに部会の研修テーマの拡大化を考えました。第5回目の研修会からは、正式に「教育・スーパービジョン部会」に改名し、スーパービジョンをその中核に位置づけ、広くカウンセリング（カウンセラー）教育全般をメインテーマにしました。この結果、第5回目の部会への参加者は旧来の約2倍に増えました。この新しい名称は、米国カウンセリング学会（ACA）の一部門である「Association for Counselor Education and Supervision（ACES）」を参考にしました。本部会は、部会の名称変更に伴い、来年度は認定カウンセラーの専門性を高めるためのカウンセリング教育に関する幅広いテーマを設定し、会員の方々の期待に応えたいと考えます。

2. 2012年度の計画 現在作成中

◇医療・看護・福祉カウンセリング部会

1. 今年度の研修内容と総括

- 第1回「大人（働く人）のうつ」～事例を中心に～ 講師：飯田 俊穂
 第2回「医療・福祉領域でのカウンセリングの意義」 講師：山本 晴義
 第3回「うつ状態に対する認知行動的アプローチ法」 講師：飯田 俊穂
 第4回「うつと発達障害」 講師：飯田 俊穂
 第5回「新型“うつ”について～その傾向と対策～」 講師：飯田 俊穂

<総括> 今年度は、うつを中心テーマに様々な分野から研修しました。

2. 2012年度の計画 現在作成中

◇危機支援部会

1. 今年度の研修内容と総括

第1回「被災者への具体的な支援活動について」

6月4日(土) 対策本部主催：被災者支援研修会 160名参加

第2回「東日本大震災被災者支援に向けて(1)」資源アンケート48名回収

7月24日(日) 危機支援継続研修会：95名参加

9月19日(月・祝) 大会シンポジウム「わかちあいの会」ワークショップ

第3回「支援に役立つ実践技法：足湯」80名参加

講師：高倉 恵子

第4回「グリーフケアのかかわり技術(1)」～芸術療法の活用～

講師：鈴木 康明

第5回「DVを中心に」

講師：中島 幸子

☆「死別の悲しみをわかちあう会」 偶数月の第1土曜日、計5回実施

☆北茨城市にて、「かもめの会」を10月～3月まで、計6回実施(報告第11号7ページ)

☆石巻市河北地区の仮設住宅2か所にて、計9回(12日)の支援活動(報告第11号9ページ)

<総括> ・未経験の大災害への対応はまさに手探りであった。研修及び実践的な対応を学びつつ支援活動に入ったが、組織的な取組みが不十分であった。(部会の方針が不明確、対策本部との関係、危機支援カウンセラーの機能不全等々) ・通常の部会研修が即被災現場に結びつくことを実感(グリーフケア、足湯等)。

2. 2012年度の計画 相互研究会については、現在作成中

☆「死別の悲しみをわかちあう会」 ※学会のインターネットで案内中です。

6月2日(土)、8月4日(土)、10月6日(土)、12月8日(土)、2月2日(土)

時間は、毎回14:00～16:00 会場は、東京福祉大学池袋キャンパス

連絡・問合せは、鈴木康明先生へ yasuzuki@ed.tokyo-fukushi.oc.jp

電話：03-5960-7037 FAX:03-5960-7038

☆北茨城市での「かもめの会」、継続の予定。

☆石巻市河北地区仮設住宅での支援活動、継続の予定。

2011年度 認定カウンセラー会 公開研修会（静岡会場）の報告

認定カウンセラー会 公開研修会「人と人をつなげるカウンセリング
—コミュニティー・アプローチの視点から—」に参加して

静岡県SCスーパーバイザー 藁科 正弘

2月18日（土）に静岡市で日本カウンセリング学会 認定カウンセラー会 公開研修会が静岡で初めて開催されました。静岡県の会員を中心に、各地から59人が集まって和やかな雰囲気でのびのびと始まりました。会場のグランシップのロビーからは富士山のすばらしい姿が眺められ、絶好の天気にも恵まれた一日でした。

最初に静岡県の会員を代表して私からご挨拶をさせて頂き、現在進行中の静岡支部結成の動きに付いても紹介させて頂きました。現在静岡県には認定カウンセラー29人、会員約168名おりますが、認定カウンセラーの有志を中心に、静岡県支部の結成を準備しています。順調にいけばいよいよ24年度中には発足の運びになると思います。

その後会長の東京福祉大学教授 田上不二夫先生からご挨拶の後、午前中、先生ご自身による「つながり合うことから始まる登校支援」と題する研修が行われました。

最近不登校が増えたが、その原因を子どもに求めてもだめで、社会環境の影響が大きいので、子どもに合った教育を考える必要がある。特別支援教育においても同様で、発達障がいを持った子どもに合った教育環境を用意する必要がある。不登校の子にはつながり合う登校支援が必要で、対話だけでは行きづまってしまい場が持たない。そこで教師が子どもとつながる楽しいことをやる必要がある。ゲームなどはそれに適した方法で、それもいろいろな方法を心得ていて、飽きないように行くたびにゲームを替えることも必要。上手な人はこのような方法を活用して人間関係づくりが速い。それから時間と場所を決めて学校で待ち受ける。さらに楽しいことを続けて別室登校に持って行く。そして適当な課題を出し家庭学習をさせ、先生に見てもらおうというようにつなげていくのが効果的だというような、先生の体験に基づく教育現場に役立つ実践的なお話がありました。そしてお話に合わせてバースデーチェーンやアドジャンなどを楽しく実習しました。

午後の研修は岐阜女子大学教授 青戸泰子先生が「人と人をつなげるカウンセリング『支え合う、つながり合う、あの手この手』—コミュニティー・アプローチの視点から—」と題してご指導くださいました。

現在は社会の壁にぶつかる若者が増えている。それは家族の機能の低下や人間関係が楽しめない社会背景によるものだが、世代間に共通する社会的な問題は人々の孤立化である。その中で子どもが幸せになるには生きる力を育てる事が大事で、その一つに自己決定感があり、そのためには自己有能感を養う事が大切である。それに資するために教育相談機能を充実させる事が大切で、それを高める5つのポイントがある。即ち①カウンセリング ②コンサルテーション ③心理教育の啓発 ④危機支援 ⑤システム構築 である。

学校におけるカウンセリングは成長や発達を助け、健全なところを伸ばしていくことである。そして職業を通して個人の持っている資質を生かすための職業ガイダンスが必要となる。その援助方法はカウンセリングを初め、SST、SGE、対人関係ゲーム、ペアレント・トレーニング、コンサルテーション等様々である。そして学校においては個々のカウンセリングをしても効率が悪いので、システムを構築して教育相談体制の整備をする必要がある。多くの場合生徒指導会議を持っても情報の共有で終わってしまっている事が多い。そこで先生が実際に関わった不登校の事例、危機支援の事例、非行の事例、支援教育推進プログラムなどを紹介しながら、いかに支援体制を構築していったかを紹介された。そこで本人が何に困っているのか、周りがどのように見えているか、その子どもの視点に立って、支援方法をチームで考え、支援することがポイントだとまとめられた。

またすべての子どもたちを対象にしたユニバーサルなアプローチとしては分かる授業づくりと人と人との関係づくりが大切で、今後求められる教育の課題は、地域、学校、家庭、行政が連携して ①役に立つ・感謝される体験 ②主体的・自律的取組み ③肯定的な人間関係を育て、キャリアの形成につなげていくことが必要と説かれました。実践を踏まえた理論と実際に話を聞いた印象に残る研修でした。

関連書籍案内

○『実践 グループカウンセリング ～子どもが育ちあう学級集団づくり～』

「対人関係ゲーム」による とともに楽しみ、ともに育つ仲間づくり！

田上不二夫・編著 金子書房 定価2310円（税込）

○『児童心理』 2011年2月臨時増刊

「学校におけるチーム援助の進め方」

金子書房（03-3941-0111） 定価1020円（税込）

北から南から

北海道の春のように、ゆっくり、のんびり学び続けます

出村 栄子（帯広市）

認定カウンセラーの面接試験は生涯忘れられない日になりました。

3時に離陸するはずだった帯広空港に長く留まり、夜遅く着いた羽田空港で朝を迎え、いつ動くとも知れない品川駅の長蛇の列に加わり、やっと辿り着いた面接会場。船底のように揺れるホテル11階で朝を待ち、帰路の機内から見たコンビナートの噴煙と茶色に縁取りされた海岸線。繋がらない電話。すべてが、胸騒ぎの連続でした。

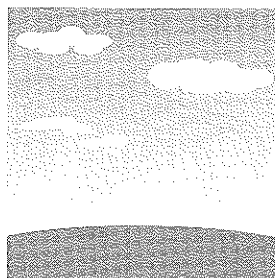
私は仕事の半分ほどをスクールカウンセラーとして、他はカウンセリングスタジオと名づけた相談室で、個別相談をお受けして18年になります。この経験の中で、最多の予約を承ったのは、9・11の直後の2ヶ月間でした。そして最少だったのが、このたびの3・11直後の2ヶ月間でした。これは、私だけのデータでしょうか？

こんなに遠くまで伝わった厳しい現実には驚愕し、心停止したためと読み解いたとすると、被災地の方々の心奥深く畳み込んだ恐怖や痛みは、想像を絶するものだったことでしょう。きっと今も尚、喪失感の中で現実対応に追われる日々をお過ごしのことと思います。いつの日か、何らかのお役にたてる存在でありたいと願いながら、一年目の報道を受け止めています。

晩年（そろそろ？）心身の健康が与えられるならば、ホスピスなどで人生のピリオドを共に分かち合うような役割をお受けできるようになることをイメージしながら、今日与えられた出会いを大切に重ねていきたいと考えます。また、多くの深い哀しみが少しでも癒され、希望へと繋がる明日であることを信じます。

北海道の春のようにゆっくり、のんびりですが、学び続けて参りますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

亡くなられた多くの方々のご冥福と、ご遺族のご多幸をお祈りします。



(2012. 3. 12)

2011年度 資格取得者からのメッセージ

スタートラインに立った気持ちで努力・精進していきます

五浦 哲也（小樽市）

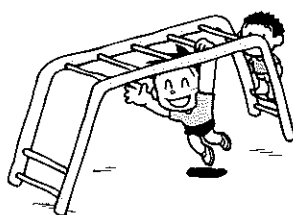
この度、日本カウンセラー学会認定カウンセラーとして認めていただき資格を得ることができました北海道の五浦哲也と申します。私は、これまで25年以上、小・中学校の教員として子どもたちの教育に携わってきました。現在は、小学校の教頭として勤務しています。従って、私が認定カウンセラーとしての力を発揮するカテゴリーは教育です。この教育分野において私は、次の3つのことに力を注いでいきたいと考えています。

まず、全ての子どもたち全体に対しての予防・開発的な取り組みです。子どもたちは、集団の中で日々成長していきます。この個と集団の関係や子どもたちの発達段階や実態に即し、問題行動や不登校などを未然に防ぐ取り組みをしていきたいです。そのためには、実態把握の質問紙や観察、教育相談などの学校体制の整備を図るとともに、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニング等により、望ましい学級集団、学年集団、そして学校づくりを目指していきたいです。

次に、不登校や問題行動の他、特別な教育的ニーズを必要とする子どもたちに対しての個別支援の充実です。ここでは、これまで通常の学級を受け持ち不登校の子どもを教室に復帰させた経験、問題行動を繰り返してきた子どもへの対応経験や、特別支援学級の担任及び特別支援教育コーディネーターとして困り感を持つ子どもたちに対応してきた経験をもとに、個別のカウンセリングや支援をしていきたいと思っています。そのために、担任を支援するコンサルテーションを行いたいと思います。

さらに、教頭は職員室の担任といわれるように、先生方のメンタルヘルスの維持向上に心がけていきたいと思っています。学校現場で大きな一つの課題となっている先生方のストレス問題への対応に向け、日常の観察や声かけをはじめ必要に応じてカウンセリングを行いたいと考えています。

この度、認定カウンセラーとしての資格を得たことで、今まで以上にカウンセリングの専門家としての自覚と責任を強く感じています。資格を得たのはスタートラインに立ったという気持ちで、今後一層の努力・精進をしていくことで資質向上を目指していく覚悟でいます。



新たな気づきを求めて

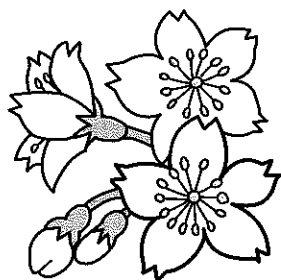
日下 詩子（宇都宮市）

カウンセリングを学ぼうと思い立ったのは数年前に、中学校の指導助手をした時だった。時間に追われるような日々の中で、もっとじっくり子どもたちと向き合いたいと思った。ある機関の短期集中講座に通っていた時、「犯罪被害者等基本計画」により、被害者担当保護司に指名されることになった。保護司になって3年目のことだった。犯罪の被害に遭われた方たちとしっかり向き合うために、NPO法人栃木県カウンセリング協会主催の研修講座を受けることにした。もし、カウンセリングを学んでいなかったら、うろたえず、逃げずに話を聴くことはできなかったに違いない。

また、講座を受講していた2年間に、大学生の子どもの発達課題というテーマにぶつかった。ちょうど「発達心理学」の講義を受けていた時で、子どもの発達課題に立ち会うことが、実は自分自身の発達課題だと気づいた。学ぶべき事が、学ぶべき時期に目の前にすーっと来たような感じだった。そんなことが何度か重なったことで、何よりも自分が楽に生きられるようになったと感じている。

認定カウンセラーの試験については、正直、受験するかどうかわ迷っていた。2年間のカリキュラムを終え、200時間近い研修を受けたのに身につけていないという実感があった。それなのに、受験勉強を始められない自分に嫌気がさしていた。そんな時、あの3月11日がやってきた。あの夜、余震が続く中で、故下司政昌一先生の最後の授業を受けた。私を含め4名の受講生に対し、当然受験すると思われていた先生は、「試験は10月だけど、申込みの締切りは8月だからね。早めに準備しないと間に合わないよ」とおっしゃった。先生が、私の背中を押してくださったと感じた瞬間だった。それと同時に、今年受けてみてダメだったら来年また受ければいいんだと思えて、気持ちが楽になったから不思議だった。

認定カウンセラーの資格をいただいた今、新たなステージで学ぶ喜びと期待がゆっくりと胸に広がっている。この数年間、「何を学ぶか」「誰に学ぶか」に加えて「誰と学ぶか」も大切だと知った。熱心な先生方や認定カウンセラーの先輩や仲間たちと一緒に学ぶことから、どんな気づきが得られるだろうか。



INFORMATION

◇2012年度相互研究（研修）会の日程

第1回 5月20日（日） 第2回 7月8日（日）（総会）
第3回 9月9日（日） 第4回 11月11日（日） 第5回 2月3日（日）
会場は、いずれも早稲田大学22号館（予定）

◇日本カウンセリング学会第45回大会（柏市：麗澤大学にて）

・研修会等 10月26日（金） ・大会 10月27日（土）、28日（日）

◇2011年度認定カウンセラー資格取得者

赤羽晃子・天内美加子・石橋 悟・五浦哲也・大越登美子・大橋茂美・岡田典子・菊池敦子・
木谷久美・日下詩子・栗原恵子・小林悦子・小牧陽子・坂井妙子・酒井 恵・佐藤由美子・
清水隆子・関根滋子・高田加奈子・竹之上房幸・塚田敏雅・手塚かおり・中村ちとせ・野村光貴・
新島芳子・野沢美恵子・野本紗由・服部千恵子・藤井祐子・甫坂賀子・皆川幸恵・森田智美・
渡辺あずさ

◇理事会（2月5日）の主な報告・連絡等

- ・東日本大震災支援活動、危機支援部会・東関東支部・栃木県支部・北東北支部・埼玉カウンセリングセンター等が組織的に実施している。
- ・認定カウンセラーの名称について、将来的には「カウンセリング心理士」、准カウンセラーはそのままとする方向で考える。准カウンセラー位置づけは次回理事会で検討する。
- ・ガイダンスカウンセラーの資格申請、今後も受け付ける。今年は65名の申請があった。
- ・カウンセリング大会認定カウンセラー会企画。現在、危機支援部会：グリーフに関する企画の申し出がある。

★おわび：毎回掲載している各回の相互研究（研修）会の報告（感想等）を紙面の関係で、第3・4・5回分を載せることが出来ませんでした。事務局で保管してありますので、どうぞ請求して閲覧ください。

【編集後記】

- ・東日本大震災から1年経過。第11号で震災特集を組んだ関係で、12号を通常号としました。すでに研修計画ができている部会、作成中の部会。今年度も時代の要請に応えられる研究・研修になっていくことを望みます。
- ・11号の編集後記と重なりますが、学会・認定会の東日本大震災関連情報・連絡を、認定カウンセラー会のホームページに掲載しますので、ぜひ目を通してください。（広報委員：阿部）